

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：32605

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720105

研究課題名(和文)近代日本語文学圏における文学結社ネットワークとそれを媒介とした地域文学交流の研究

研究課題名(英文)The study of networks of major literary associations and inter-regional literary activities utilizing these networks in the Japanese literary field in early 20th century

研究代表者

藤澤 太郎 (Fujisawa, Taro)

桜美林大学・人文学系・准教授

研究者番号：30406847

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代日本語文学圏内各地方の地域的な文学活動の研究、及び地域間の文学的交流の研究と中央の詩歌俳句結社のネットワーク網の研究とを結びつけ、中央・地方の相互交流・影響関係について明らかにしていくことを目指すものである。資料調査・収集については、事前・事後調査を合わせて47都道府県立の図書館・文学館について基礎的な作業を終えており、順次収集した資料の整理分析と成果公刊への準備を進めている。現時点では、山形県の詩人を中心としたネットワークについて『山形・詩人と詩誌の系譜 鈴木健太郎と『血潮』・『詩脈』』にまとめた他、各地の詩歌俳壇のネットワーク等に留意した成果物の準備を進めている段階である。

研究成果の概要(英文)：This study mainly analyzed relationships between regional literary associations and major literary associations networking with the Japanese literary field in early 20th century. Through these analyses, this study revealed mutual influences between regional literary associations and literary schools which occupied the dominant position in the Japanese literary field.

研究分野：日本近代文学

キーワード：地方文学 文学結社 東北文学 台湾文学 山形県文学

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、平成 21 年から平成 23 年度までの 3 年間、科学研究費補助金(若手研究 B)の交付を受け「地域文学組織を基盤とした近代日本語文学圏の「草の根」文学交流研究」というテーマで、近代日本語文学圏における地域的文学結社・組織間の交流について研究してきた。

このような地域的文学活動を研究する中で見えてきたのが、一つの文学運動が規模としては地域的なものであっても、中央の文学結社のランチとして機能する中で中央や他地域との交流がその媒介によって生まれ、それが土着的な文学活動にも影響をあたえているという状況である。例えば、研究代表者が中心的に研究していた山形県の歌壇では、大正中期頃から国井葎村や結城哀草果といった土着的な歌人による文学活動が盛んになるが、これはそれぞれ『吾妹』・『アララギ』という中央の歌人結社と結びついており、その枠内での創作活動をしているという側面が多分に存在した。その後、山形県歌壇は『吾妹』・『アララギ』の二極体制から『アララギ』・『霸王樹』を中心とした多極化状態に転化するが、そのような中央歌壇との結びつきは絶えず存在し、歌人たちはそのネットワークを利用しながら他地域の歌人と交流し自らの文学活動を進めていったのであった。

しかしながら、このような中央の詩歌俳壇結社の地方詩歌俳壇との関係や地域間の文学ネットワークに果たした役割については、一部の有力詩歌俳句結社のネットワークを除いて明らかにされているところは多くなかった。そのため、前研究ではまずその点がある程度明らかにしなければいけないという「障害」に突き当たることとなった。

本研究は、このような問題の存在を前提として、前記科学研究費補助金受給研究の構想を発展させる形で構想されたものであるといえる。

2. 研究の目的

本研究のポイントは、中央と地方・各地域との関係の中で、あるいは各地域間のネットワークの中で、それぞれの地域の文学活動について考察していくという点にある。そして、さらにその延長として、そのような地域間ネットワークの知見と中央の詩歌俳壇結社との関係を合わせて、中央の文学史に新たな視点を提示することも目的となってくるものである。それらを具体的に整理すると下記のようなになる。

(1) まず研究の第一の目的となるのが、地域的な文学活動それぞれについて、広域的なネットワークの中での分析把握である。現状では、地域的な文学活動の研究は各地域ごとに完結していることが多いが、本研究はそれ

ら各地に散在する研究を結びつけて、広域的なネットワークの中でその位置づけ・意味づけを行っていくものである。最終的には、通史的縦軸の中でそれぞれの地域の文学活動の詳細を明らかにするとともに、日本語文学圏全体を見渡す視点からそれを評価していくことが目標となる。

(2) 続いて第二の目的となるのが、地域的文学組織間の交流や広域的な文学的ネットワークの様態そのものについての分析把握である。都道府県等の地域的枠組みを超えて重層的に広がる文学ネットワークを明らかにし、相互の人的・物的交流関係から作品間の影響関係まで明らかにしていくことで、「中央集権的」な「文学史」とは異なる「文学史」の見え方を提示することが目標となる。本研究では、特に東北地方を中心としたネットワークと台湾・「満洲国」等「外地」へとつながるネットワークを明らかにすることを想定した。

(3) これらと合わせて第三の目的となるのが、中央の詩歌俳壇結社のネットワークと各地域の文学活動との相互的關係の分析把握である。これは、一方では中央の詩歌俳壇結社の組織活動という側面において地域的な文学活動・地域間文学交流の様態を整理するものであるが、同時に地域的な文学活動・地域間文学交流を整理した成果を中央の詩歌俳壇結社の分析へと還元することで、中央と地方の相互的影響関係を明らかにし、「文学史」の見方を変えていく新しい視点を提示していくことを目標とするものでもある。

3. 研究の方法

本研究は、地方各地域の文学活動の状況を明らかにしていく方向性と、中央の詩歌俳壇結社の側の状況を明らかにしていく方向性の二つの方向性から、下記のような手順で研究を進めた。

(1) 各地域の文学活動について、各都道府県立図書館・文学館、あるいは関連する市町村立図書館・文学館におもむいて調査を実施し、資料収集を行った。特に中心的な対象となる東北各県の県立図書館・文学館を網羅的に調べるとともに、47 都道府県について満遍なく調査を行うことによって、各地域の「埋もれた」文学活動の発掘に努めた。

(2) 各都道府県立図書館・文学館の調査と同時に、各地の文学研究者・出版書店関係者と連携して相互的に情報・資料を提供していく関係を築くことで、一次資料やあるいは文字化されていない情報を収集することにも力を注いだ。地域的な文学活動に関わる資料は公的機関等の所蔵が十分でないケースが多いため、このような作業は必要不可欠なもの

であった。

(3) 中央の文学結社の側の調査は、詩壇では詩話会の機関誌『日本詩人』、及び有力詩人主宰の詩誌について、歌壇では『アララギ』を中心に『国民文学』・『創作』・『詩歌』・『潮音』・『水瀾』・『霸王樹』・『日光』等有力歌誌について、俳壇では、『ホトトギス』及びその傍系俳誌と河東碧梧桐・中塚一碧楼を源流とする『海紅』・『層雲』等の自由律俳句グループの俳誌についてをそれぞれ主な調査対象とし、地域的な詩歌俳人同人網の整理とその相互関係についての分析を進めた。

このような調査・分析を基盤とし、それを段階的に融合させていく形で研究を進めていくことが、本研究の方法論であった。

4. 研究成果

本研究の準備段階の調査と合わせて、日本国内の都道府県立図書館・文学館は全 47 都道府県について一通りの調査を完了し市町村立図書館・文学館についても 100 館以上の機関で一定の調査を完了した。各地の文学研究者・出版書店関係者と連携、中央の詩歌俳壇結社の調査と合わせて、資料収集については比較的順調に進んでいるといえる。成果公刊については進捗が遅れているが、順次作業を進めており、準備ができたものから公刊していく予定である。以下準備中のものも含めて記したい。

(1) 詩壇に関わる研究全体の中で、最も重点を置いて基点として位置づけているのが山形県の詩壇である。対象となる主要な詩人(群)は下記の 10 名(組)である。

鈴木健太郎
齋藤禮助
真壁仁
長崎浩
木内進
佐藤總右
高橋兼吉
加藤末男
星川清躬

那須貞太郎・日塔聰・貞子・安達徹

現在、このうち最初の論考を『山形・詩人と詩誌の系譜 鈴木健太郎と『血潮』・『詩脈』』(村里社、2012 年)としてまとめており、続稿も準備中である。

東北地方各地域間ネットワークについては、上記鈴木健太郎の論考でも触れた他、続稿でも 木内進・加藤末男と福島・宮城の『北方詩人』、佐藤總右と岩手の鶴川三夫、高橋兼吉と秋田の北本哲三、等について扱う予定である。

また、中央詩壇との関係は、齋藤禮助と東洋大学詩人群との関わり、真壁仁と農本主義的アナキスト詩人の関係、木内進と

プロレタリア詩歌組織との関係、星川清躬と川路柳虹系詩誌との関係について今後論じる予定である。

(2) 東北地方・新潟地域の詩壇では、さらに新潟の詩誌『新年』をめぐるネットワークについて、「詩歌誌『路上』のはなし 詩誌『新年』前史として」「詩誌『新年』と新潟の四人の集まり」市島三千雄生誕一〇五年記念号(市島三千雄を語る会、2012 年)、「『新年』と草野心平 詩誌『太平洋詩人』から見たその結びつき」「詩誌『新年』への想い」第 1 号(市島三千雄を語る会、2013 年)、「寒河江真之助と詩歌誌『高潮』 詩誌『新年』前史として・その 2」『詩誌『新年』への想い』第 2 号(市島三千雄を語る会、2014 年)にまとめている他、青森県の方言詩人群と佐藤一英「聯詩」運動との関係、石巻の詩誌『滴』と石原亮「二行詩」運動との関わりについて論考を準備中である。

その他、中央の詩誌『詩神』・岡山の間野捷魯編『鬘』・高知県の詩人群活動の関係を合わせて論じた論考を準備中であり、その中で「満洲国」を含めた広域的文学交流について扱う予定である。

(3) 歌壇については、山形県で影響力を持った『アララギ』・『霸王樹』を中心に資料の収集と分析を進めている。結城哀草果、結城健三、国井葎村、須藤克三等山形県内の有力歌人の他、戦時期台湾で活動した齋藤勇までを対象としてまとめていく予定である。

(4) 俳壇に関わる部分については、先行して『ホトトギス』の台湾俳壇に関わる部分と、自由律俳誌『海紅』・『層雲』に関わる部分について調査を進めている。「各地俳誌のなかの地橙孫(1)」『地橙孫新聞』第 13 号(兼崎地橙孫顕彰会、2014 年)は後者についての実果の一部である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

藤澤太郎、寒河江真之助と詩歌誌『高潮』詩誌『新年』前史として・その 2、詩誌『新年』への想い、第 2 輯、2014 年、査読無、4~9 ページ

藤澤太郎、各地俳誌のなかの地橙孫(1)、地橙孫新聞、第 13 号、2014 年、査読無、2~3 ページ

藤澤太郎、『新年』と草野心平 詩誌『太平洋詩人』から見たその結びつき、詩誌『新年』への想い、第 1 号、2013 年、査読無、3~5 ページ

藤澤太郎、詩歌誌『路上』のはなし 詩誌『新年』前史として、詩誌「新年」と新潟の四人の集まり、市島三千雄生誕一〇五年記念号、2012年、査読無、5～9ページ

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

藤澤太郎、村里社、山形・詩人と詩誌の系譜 鈴木健太郎と『血潮』・『詩脈』、2012、156

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤澤 太郎 (Fujisawa, Taro)
桜美林大学・人文学系・准教授
研究者番号：30406847

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：